【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年3月4日(2010.3.4)

【公開番号】特開2009-21669(P2009-21669A)
【公開日】平成21年1月29日(2009.1.29)
【年通号数】公開・登録公報2009-004
【出願番号】特願2007-180897(P2007-180897)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｍ　3/54　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　1/64　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　1/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｍ　3/54
Ｈ０４Ｍ　1/64　Ｆ
Ｈ０４Ｍ　1/00　Ｓ

【手続補正書】
【提出日】平成22年1月19日(2010.1.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
図８において、ＩＮＶＩＴＥメッセージ６０の１行目にはリクエスト文が記述され、２００５番への呼接続を要求する１文が記載されている。以下、Ｆｒｏｍヘッダには発信元情報が、Ｔｏヘッダには宛先情報が示されている。このＩＮＶＩＴＥメッセージ６０では、３００１番から２００５番への呼接続要求を意味している。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
図９を参照して、Ｈｉｓｔｏｒｙ－Ｉｎｆｏヘッダを用いたＩＮＶＩＴＥメッセージを説明する。図９において、ＩＮＶＩＴＥメッセージ６０Ａの１行目にはリクエスト文が記述され、２０１０番への呼接続を要求する１文が記載されている。以下、Ｆｒｏｍヘッダには発信元情報が、Ｔｏヘッダには宛先情報が示されている。このＩＮＶＩＴＥメッセージ６０Ａでは、３００１番から２０１０番への呼接続要求に見えるが、Ｈｉｓｔｏｒｙ－Ｉｎｆｏヘッダを参照すると、宛先情報の遷移が記録されているので、電話番号２００５から電話番号２０１０に転送されていることが分かる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４４】
最後に、留守録電話機１０に記録された録音メッセージの確認方法を図１４と図１５を用いて説明する。ここで、図１４は電話機Ａと留守番電話機１０との間の留守録メッセー

ジ確認時のシーケンス図である。また、図１５は留守録メッセージ確認時の留守録電話機１０の処理フローチャートである。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４７】
図１５を参照して、留守録メッセージ確認時の留守録電話機１０の処理フローを説明する。具体的には、図５の留守録処理部４５の処理フローである。留守録電話機１０が着信した際に本フローが開始される。まず、留守録処理部４５は、図１４で説明したコマンドを受信したかを判定し（Ｓ４０１）、コマンドの受信がない場合（Ｓ４０１；Ｎｏ）は本フローを終える。コマンドを受信した場合（Ｓ４０１；Ｙｅｓ）、留守録処理部４５は、相手側の操作ユーザにＩＤの入力を要求し（Ｓ４０２）、その受信を判定する（Ｓ４０３）。ＩＤの受信がない場合（Ｓ４０３；Ｎｏ）、留守録処理部４５は、その受信を待つ。ＩＤを受信した場合（Ｓ４０３；Ｙｅｓ）、留守録処理部４５は、ＰＡＳＳの入力を要求し（Ｓ４０４）、その受信を判定する（Ｓ４０５）。ＰＡＳＳの受信がない場合（Ｓ４０５；Ｎｏ）、留守録処理部４５は、その受信を待つ。ＰＡＳＳを受信した場合（Ｓ４０５；Ｙｅｓ）、留守録処理部４５は、ＩＤとＰＡＳＳの照会を行う（Ｓ４０６）。留守録処理部４５は、ＰＡＳＳが正しいか判定し（Ｓ４０７）、照会の結果が正しければ（Ｓ４０７；Ｙｅｓ）、該当ユーザの不在着信件数と録音メッセージ件数を通知する（Ｓ４０８）。照会の結果が正しくなければ（Ｓ４０７；Ｎｏ）、留守録処理部４５は、本フローを終える。